

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	駿河台大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	スルガダイダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ1
	学部・研究科等名	全学部(法・経済経営・メディア情報・現代文化・心理)
	担当教職員名・役職	嶋田節男・客員教授、松平光徳・法学部教授、八田真行・経済経営学部講師、斎賀和彦・メディア情報学部教授、小林奈穂美・現代文化学部准教授、佐古年穂・心理学部教授、永作稔・心理学部准教授
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	78
受入企業等数	43	
受入企業等名	<a href="https://www.surugadai.ac.jp/career/internship/pdf/internship_2017.pdf">https://www.surugadai.ac.jp/career/internship/pdf/internship_2017.pdf</a>	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	キャリア教育の一環としてのインターンシップ	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) 3.その他
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	企業の枠に留まらない未来のキャリアを築くための「社会」の体験
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2週間(実質10日)を基本に、最低でも5日間の実習を行うインターンシップである。実習先の業務全体、社会における役割を学ぶと共に、広い意味での「社会」を体験できる教育的実習を提供することを実習先に求め、職業選択に有用な職業観、就業意識等を育み、ジェネリック・スキルを身に付けさせるインターンシップとしている。また、実習先によっては、企画提案などの課題に取り組むPBL型の実習を行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 9.その他
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	最低5日間のインターンシップ実習は夏季休暇期間中に行われるが、春学期の11回(4月～7月)の事前研修、秋学期の報告会を含む3回(9月～10月)の事後研修がセットになっている。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次・3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	キャリア教育科目群中に選択科目の「インターンシップ1」として置かれ、座学で学んだ事項を実践的に再確認できる科目と意義付けられる。2年次から履修可能で、平成29年度は78人中23人が2年次生であった。春学期11回の事前研修、夏期休暇中の実習、秋学期3回の事後研修よりなる体系的インターンシップで、4単位が与えられる。科目の目的等は、シラバスにおいて明示されており、履修登録前にガイダンスも1回行っている。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	実習日誌を毎日記入させている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前研修は、担当教員全員が出席して、春学期の土曜日2時限に、11回実施する。その中最低6回は、外部講師の講義に当てるなどして、就業意識、実習への心構えの涵養、職業倫理、ビジネス・マナーの習得など、十分に実習への準備を整えさせる。また、メールに関する指導も行う。学生は、企業・団体の概要やメッセージなどが載るリストより実習先を選択し、提出を求める「実習先研究シート」により、企業研究を行っている。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習後、担当教員の添削を受けた上での報告書の提出、「発展研究」を記入しての「実習先研究シート」の再提出が求められる。また、プレゼン指導、リハーサル、報告会という3回の事後研修を行う。報告会は、実習先を招待して、公開で行われる。参加実習先にはコメントも頂く。これにより、学生が「体験」を振り返り、自分の言葉で語れるようにして、実習の効果がよりしっかりと学生に定着するように配慮している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実習中は、実習生のゼミ担当教員を中心に、1回の実習先訪問を実施し、学生の状況、実習内容の確認を行う。また、実習担当者等へ会って、実習状況を確認し、要望等を受け付ける。そして、訪問担当者は、訪問後、報告書を提出する。これは、科目担当者が確認し、問題点等を洗い出す。また、学生には「実習日誌」を毎日つけさせ、実習担当者からコメントを頂く。実習日誌は報告会后に提出させ、これも、担当教員が確認を行う。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	ポートフォリオの作成
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前研修に初めに行った「キャリア意識アンケート」を、実習後の報告会后に再度実施し、参加学生の意識の変化、成長の度合いを確認している。また、ポートフォリオSCIP(Sundai Community Internship Portfolio)として、事前研修中の資料・コメントペーパー、実習日誌、報告書などを綴じ込み、学生が自己の成長を確認できるようにしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している 4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間19～24日間(うちインターンシップ実施期間5～10日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	企業・団体の都合により連続でない場合もあるが、2週間(実質10日)を基本に、最低5日間の実習を行っている。
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生が選択した一企業・団体において、2週間(実質10日)を基本に、最低5日間の実習を行う。大部分は、休日をはさんで連続して実習が行われるが、実習先や学生の都合によって、連続ではないケースもある。また、事前研修を11回、事後研修を3回行っている。

要素 ⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学のインターンシップは、実習先を紹介頂いている飯能信用金庫との産学連携事業の一環として実施され、産学連携事業実施委員会において、計画段階から毎月状況確認を頂き、2月には総括を行う。また、実習先企業・団体には、事前研修の講義1回、大学でのマッチング、事後研修の報告会への参加協力を頂いている。これらを、独自に行う授業アンケートと共に、新学期前に行う科目担当者会議でチェックし、授業改善に繋げている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://www.surugadai.ac.jp/career/internship/internship.html">https://www.surugadai.ac.jp/career/internship/internship.html</a> <a href="https://www.surugadai.ac.jp/ebook/31/">https://www.surugadai.ac.jp/ebook/31/</a> 補足資料は別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	駿河台大学
	担当部署名	学務企画部地域連携課
	担当者役職名	主任
	担当者氏名	平松真梨
	電話番号	042-972-1181
	メールアドレス	tiiki@surugadai.ac.jp